



## 研究成果

報道発表資料の配信日時 2023年 9月14日 10時00分

# 炎症性腸疾患患者における COVID-19 重症化因子を解明 肥満や脳血管疾患の既往歴が重症化のトリガー

～日本人炎症性腸疾患患者における COVID-19 感染者の多施設共同レジストリ研究  
(J-COSMOS)の最終解析～

### <研究の概要>

札幌医科大学医学部消化器内科学講座 教授・仲瀬裕志を代表とする研究グループ（日本人炎症性腸疾患患者における COVID-19 感染者の多施設共同レジストリ研究グループ：J-COSMOS group）は、炎症性腸疾患（IBD）患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の重症化因子が、BMI 高値（肥満）と脳血管疾患の既往歴であること、IBD に対する抗 TNF $\alpha$  抗体またはチオプリンの使用は COVID-19 の重症化リスクが少ないことを明らかにしました。また、本レジストリにおいて COVID-19 による死亡者はいませんでした。この研究は、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）における COVID-19 JAPN IBD Taskforce の事業として、77 の医療施設が参加して行われた研究で、その研究成果は 2023 年 7 月 31 日付に国際科学誌 Gastro Hep Advances のオンライン版で掲載されました。

Hiroshi Nakase, Yuki Hayashi, Yoshihiro Yokoyama, Takayuki Matsumoto, Minoru Matsuura, Hideki Iijima, Katsuyoshi Matsuoka, Naoki Ohmiya, Shunji Ishihara, Fumihito Hirai, Daiki Abukawa, Tadakazu Hisamatsu, J-COSMOS group.

Final analysis of COVID-19 patients with inflammatory bowel disease in Japan (J-COSMOS): a multicenter registry cohort study

（日本人炎症性腸疾患患者における COVID-19 感染者の多施設共同レジストリ研究(J-COSMOS)の最終解析）

Gastro Hep Advances In press. DOI: [10.1016/j.gastha.2023.07.017](https://doi.org/10.1016/j.gastha.2023.07.017)

[https://www.ghadvances.org/article/S2772-5723\(23\)00117-6/fulltext](https://www.ghadvances.org/article/S2772-5723(23)00117-6/fulltext)



## <研究のポイント>

- ・参加登録された医療機関に通院中または入院した炎症性腸疾患(IBD)の患者さんで、かつ COVID-19 に罹患した方を対象に、IBD の活動性、IBD の治療薬、COVID-19 の重症度などについて調査しました。
- ・前回の中間解析 (2021 年 10 月 31 日) から最終解析 (2022 年 12 月 31 日) までに登録患者さんは 1121 人増加し (6.1 倍)、最終的に 1308 人の患者さんが解析されました。同時期の日本人の COVID-19 発症件数は 14.4 倍に増加していることから、IBD 患者さんが、自分の免疫が弱いことを自覚し、感染予防を徹底していることへの表れと考えています。
- ・登録患者のうち COVID-19 が重症化した患者さんは 1.6%で (WHO 重症度分類)、残りの 98.4%は非重症型でした (厚生労働省の定義する重症度分類における中等症 II と重症は、どちらも WHO 重症度分類の重症に相当する)。また、登録された患者さんで COVID-19 による死亡者はいませんでした。
- ・COVID-19 の発症によって、IBD の病状が悪化することは少ないこと、また一時的に IBD が悪化する場合も COVID-19 の治癒後に元の IBD の病状まで改善することが多いことが判明しました。
- ・統計学的解析により、高 BMI (肥満)、脳血管疾患の既往歴があることが IBD 患者における COVID-19 の独立した重症化因子であること、IBD に対する抗 TNF $\alpha$  抗体またはチオプリンの使用は COVID-19 の重症化リスクが少ないことがわかりました。

## <研究の背景、実施期間など>

炎症性腸疾患 (IBD) は腸に慢性的な炎症を繰り返す疾患で、潰瘍性大腸炎とクローン病の 2 つの特定難病に大別されます。本邦において IBD 患者は増加しており、2020 年に約 22 万人の日本人が罹患していると推定されています。IBD 患者は免疫を抑える治療薬を常用することが多いため、IBD 患者は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に罹患しやすい可能性や、重症化しやすい可能性が危惧されていました。そのため、日本人の IBD 患者さんが COVID-19 を発症した際の臨床的特徴を把握し、今後の診断や治療介入に生かすために、本研究は計画されました。本研究は 2020 年 6 月から 2022 年 12 月までに、レジストリに登録された患者さんを対象に実施されました。

## <研究の意義、今後への期待>

本研究では、BMI 高値 (肥満) と脳血管疾患の既往歴が、COVID-19 を悪化させるリスクであることがわかりました。また中間解析では統計学的に COVID-19 重症化リスクと考えられていたステロイド投与は、最終解析では有意差を示しませんでした。一方で、ステロイド以外の IBD における免疫抑制治療薬 (チオプリン製剤、抗 TNF- $\alpha$  抗体製剤) は、むしろ COVID-19 を重症化させるリスクが少ないことがわかりました。

COVID-19 に関する社会的な制限は緩和されましたが、COVID-19 の流行や新たな変異ウイルスの発生といった COVID-19 に関する医学的・公衆衛生的な問題は未だ続いています。With コロナ、Post コロナ時代にお



ける IBD 診療（検査や治療）のあり方について、当講座ではさらなる研究を続けています。

## <本件に関するお問い合わせ先>

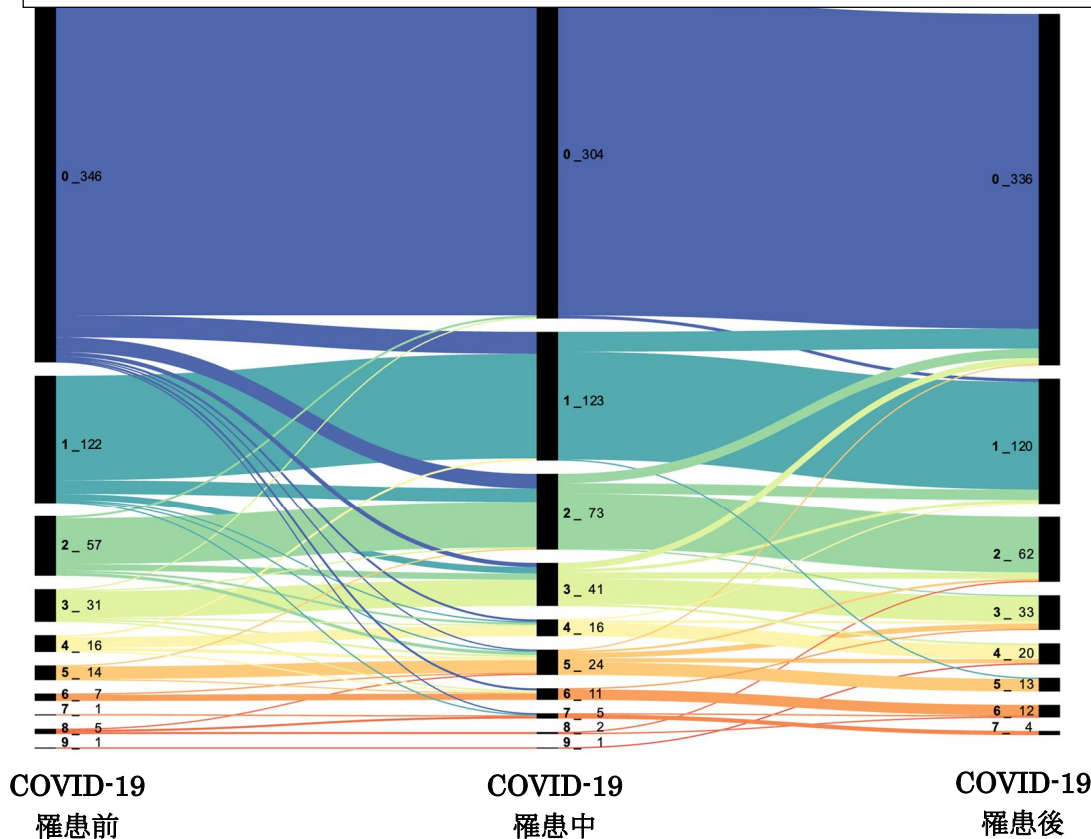
札幌医科大学医学部消化器内科学講座 教授 仲瀬 裕志  
TEL : 011-611-2111, FAX : 011-611-2282 , E-メール : hiropynakase@gmail.com

杏林大学医学部消化器内科学 教授 久松理一（厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業  
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」 研究代表者）  
TEL : 0422-47-5511, FAX : 0422-71-5912 , E-メール : thisamatsu@ks.kyorin-u.ac.jp

札幌医科大学医学部消化器内科学講座内 J-COSMOS 事務局（日本人炎症性腸疾患患者における COVID-19 感染者の多施設共同レジストリ研究事務局） 林 優希  
TEL : 011-611-2111, FAX : 011-611-2282 , E-メール : japan.ibd.covid19@gmail.com

## 【参考図】

COVID-19 罹患前後の潰瘍性大腸炎の重症度の推移 (pMayo スコアと人数の沖積図)





COVID-19 罹患前後のクローン病の重症度の推移 (HBI スコアと人数の沖積図)

